

2014/8/1 No.66

発行者：社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会
本 部：〒293-0023 千葉県富津市川名1436番地

海外研修を終えて



常務理事

西尾

建

この度、七月二日から十日までの九日間ソウエルクラブ*主催の海外研修に参加してまいりました。

ソウエルクラブの海外研修は種別ごとにコースが設定されており、のぞみ会からも毎年二名程度の職員がそれぞれのコースに参加しています。

今回参加した研修はドイツ・フランスを回る特別コースで旅程の中で四カ所(高齢者施設二カ所、障害者施設一カ所、児童施設一カ所)の福祉施設を視察する内容でした。

全体的な感想を挙げますと、一つは「個」を尊重する考え方、それに基づいた設備、体制が整っていると感じたことです。この点については、日本の福祉施設も近づいているように感じますが、集団的規律を重んじる傾向のある日本の文化が影響しているのか、日本との違いを大きく感じた部分です。

二つ目は、どの施設も自然な形で地域に溶け込んでいることです。施設に付加された近隣住民が利用できる機能が一般に解放されて

人生初飛行



使い慣れた家具や食器が持ち込まれた高齢者施設

おり、多くの近隣住民がこれを利用して印象的でした。

残念であったのは、施設と宗教の関わり方について見てみたいという思いがあったのですが、ドイツでも教会離れが進んでいると聞くように今回視察した施設ではあまり宗教色が感じられなかったことでした。

そして、今回の海外研修が四十歳を超えた私にとって初の海外で、初の飛行機搭乗であったことが個人的には大きな経験であり、初めて踏む外国の地がドイツであったことも法人の起源を考えると感慨深く、十二時間の機内の座席で若干のお尻の痛さを感じながら当時の宣教師たちは日本までの距離を船で渡られたことなど、創立時に思いを馳せる旅となりました。

また、同行した日本の福祉施設で働く方々の情報交換などの時間は通常の研修では得難い濃密な時間となり、今回、快く研修に送り出してくださいだった木下理事長、井本常務理事をはじめ役職員の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

※社会福祉事業に従事する方々の福利厚生を増進を図ることを目的に平成六年に設立された二十万人の会員を擁する社会福祉法人福利厚生センターの「social (社会) welfare (福祉)」を組み合わせた造語による愛称。

東京望みの門 自立援助ホーム マナの家



指導員 水野 真理

四月からマナの家に勤め始めましたが、何から何まで初めてのことばかり。還暦の新人は右往左往しながらも何とかやっています。が、頭はフル回転しているつもりが空回りばかりでいつになったら慣れるのかとため息が出そうになります。

ベテランの職員さんたちは「この仕事は慣れるということはないかもしれない」と仰るのですが、確かに昨日と今日では全く違った展開になっていることが多く、一日休んだだけでも「そういうことになったんですね」といった感じで頭の中をリセットします。ところが、しばらくするとまたまた事態が変

わってきますし、特に人の名前などをしっかり覚えていないと誰のことを言っているのかわからなくなり混乱してしまいます。

そのようななか、利用者と打ち解けて話す機会も少しずつ増えてきました。特に宿直は文字通り寝食を共にしながらの生活なので、彼女達がふともらす本音が聞けたり、寝る前に薬を塗ってとか湿布してなど、まだまだ子どもの部分も見せてくれます。

私が配膳の仕方やその他細々したこと間違いと「水野さん、まだ覚えはないの？」などと辛口コメントをもらうので、私が「ごめんなさい。新人だから多めに見てね」と言うのと「いいよ」という返事が返ってきたりします。

「おはよう」と言っても返事が返ってこなかったり、はっきりした理由もないのに(というより私が理解していないのでしょう)不機嫌な時もあります。「今は返事したくない気分かな」とか「意味もなく素直になれないのかも」などと思いつつ、過剰反応しないようにしています。

それでも「わからないことは教えてね。」と言うと、食後の夕拝の手順などテキパキ教えてくれたりもします。

心理職から今の仕事に変わったのですが、カウンセリングルームや面接室ではない日常生活の中で彼女達を見守りその成長を願いながら、日々過ごしていきたいと思います。

婦人保護施設 望みの門学園

学園にとつての就労支援

生活指導員 山口寿美子

望みの門学園は支援の必要な女性の社会復帰を目的とした施設で、現在十八名の利用者が学園で生活をしています。

一人ひとり事情があり、抱えている問題もそれぞれです。そして、すべての利用者が社会復帰を目指せるわけではなく長期に渡り学園で生活をしている方がいることも事実です。その中で就労支援とはいろいろな意味を持ち合わせます。「自立とは他の援助や支配を受けず、自分の力で判断したり身を立てたりすること」と辞書に載っていますが、学園で暮らす方の中には、日常生活のリズムを取ることが難しい場合もあります。一般的には朝起きて着替えをして顔を洗い、歯を磨いて朝食を食べ学校や職場へ向かう。帰ってから夕食を食べ、風呂に入りパジャマに着替え余暇を過ごし夜は眠る。

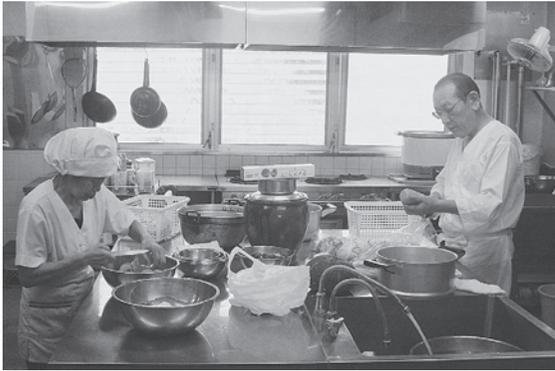
当たり前のことに見えますがこのリズムさえままならないのです。朝起きて昨日と同じ服のままであったり、歯も磨かず朝食を食べたり自分の気分(本人の認識では体調不良)で勝手に朝食を抜いたり、日中活動ではたった二時間が我慢しきれず勝手に行動したり、入浴もせず下着も変えず服のまま眠りまた朝

を迎える方も中にはいます。

なかなか、自分の力で判断し行動するといふことが難しいようです。そんな時、職員はリズムを正すために状況に合った必要な声掛けをして自発的に事に向かうよう促し対応にあたっています。

「自立」とは簡単そう聞いてとても難しいのです。ですが「外勤」として一般の就労は難しいけれど、学園の中で「内勤」として自分のできる範囲で仕事をしている方もいます。学園厨房であれば栄養士・調理員の職員、食堂掃除であれば事務所にいる職員など……どの職員も一人ひとりを視野に置き、必要な声掛けをして関わります。その中で、日常生活に通ずる我慢であったり、ルールであったり、何を伝えることができるか、できれば良いのではと思います。

平日は日中活動として「工房」「ファーム」に分かれ作業する利用



者、各施設でパート勤務や非常勤職員として勤務している利用者、学園厨房でパート勤務している利用者と毎日の過ごし方はさまざまです。社会復帰に通ずる就労支援、当たり前前の生活を学ぶ事を視野に入れた就労支援など、すべてが学園にとって重要な「就労支援」だと思います。

各施設へ勤務する利用者は内勤を経て外勤へ結びつくのですが、決して毎日をスムーズに過ごしている訳でもなく、何かしらのトラブルを抱えています。時々、学園での支援が追いつかずに勤務先の施設に迷惑をかけてしまうことも多く、申し訳なく思っています。利用者それぞれが日々ステップアップしているように、個々に合った実のある「就労支援」を心掛けていきたいと思っています。自分の力だけで自立することは難しくても、適切な支援者の少しの手助けがあれば誰でも自立できることを信じて。

養護老人ホーム 望みの門 楽生園



生きがいのために

副施設長 小嶋 友子

梅雨明けをし、いよいよ夏本番を迎えます。高齢者にとっては、熱中症にも注意しなければならぬ時期になってきました。

楽生園では、六月十三日に袖ヶ浦公園へ、

花菖蒲の観賞に出掛けました。当日は、梅雨の晴れ間で暑い日でした。花菖蒲もちょうど見頃を迎え、きれいに咲いており、利用者からも「きれいだね」という声も聞かれました。昼食は、三井アウトレットパーク木更津へ移動し、利用者に食べたいものを聞きそれぞれに合ったお店で食事をしました。中には、食事はしたものの少し物足りなかったのか別のお店でパンを召し上がったおられ、普段は小食な方なので驚きもありました。

外出することとは、五感を刺激する良い機会です。しかし、高齢になつてくると出かけることも億劫に感じる方も多くなるので、利用者の意見を聞き、いろいろ



工夫もしながら喜んでもらえる計画を立て、生きがいに繋がるように取り組んでいこうと思っています。

特別養護老人ホーム 望みの門紫苑荘

紫苑荘に来て



事務員 矢城 彩乃

望みの門に入職してから、今年で五年目になりました。高校卒業後に就職、事務員として就業、法人事務局から望みの門紫苑荘に移り一年がたちました。

事務局でやってきたことは総務です。社会保険手続き、職員情報の管理（対職員に係る業務）や、法人行事の準備参加などでした。それに対し、望みの門紫苑荘での業務は経理です。利用者様の現金預金の管理や施設の現金預金の管理が主です。異動当初は新しい経理としての業務に心躍らせると同時に利用者さまの対応に不安を感じました。過ごしてみると普段は利用さまと接する機会がありませぬ。ただ業務の一環で利用者さまと遠足に出かけることがあります。

初めての遠足は昨年春、ビックボーイへ行かせていただきました。普段、施設給食では豆腐ハンバーグがあっさりした味付けで出ますが、ビックボーイで出た肉厚ハンバーグを美味しい、美味しい、と言って食べられる

利用者さまの姿やハンバーグを手づかみで食べられていた方もいて微笑ましい思い出となりました。

また、人は年齢を重ねると油ものが受け付けない：という話を耳にしますがあの量をペロリと食べきる利用者さまに驚きました。

私が担当させていただいた利用者さまは自立していてほぼ介助の必要ない方でしたが、ほかの利用者さまは介護員が声掛けし食事を促したり、食べやすいようにフォークでハンバーグを切り小皿に移すなどを工夫していました。日常体験しない場面を見て介護の大変さの一部が分かりました。帰りがけにジャスコで買い物。自分の欲しいものを購入できてご満足された表情を伺うことができました。施設生活で外に出る機会の少ない利用者さまの息抜きとして必要なのかなと感じました。

この一年は介護施設での事務業務を通じ、新しいことがたくさん体験できました。紫苑荘二年目は利用者様と会話を多く持つなど距離を近づけたいと思います。



特別養護老人ホーム 望みの門富士見の里

悠の家族

介護員 嶋野 正子

早いもので、富士見の里に異動になり二年、私の所属する悠ユニットが開設して一年半が経ちました。

ユニットケアを行うにあたり、入居者様とも職員とも初対面、とても不安でした。

ユニットの仕事は一人仕事が多く、入居者様の事故、病気、行動等を一人の職員が注意深く見守り、仕事をします。

最初は入居者様も職員もお互い馴染めず、信頼関係が出来るまでは辛い日々が続きました。日が経つにつれ、それも楽になってきたある日、急に思い出してしまった事がありました。一年後、二年後、入居者の皆様はどうなっているのか、急に不安になってしまったのです。それからというもの、生活リハビリに力を入れる様になりました。

悠ユニットの長老様、九十六歳のI様は、本人が今まで続けてきた事です、ラジオ体操が大好きな方です。ラジオ体操は毎日、三十分間行っているのですが、「それでは足らない、一時間にしてくれ」というのです。今も元気で、毎日欠かさず同じ時間に四十五分間位ですが行っています。スーパー九十六歳です。

九十四歳のM様はいつも「私は何も出来ない」が口癖でした。やって頂くと色々出来る事に気が付き、左手にしびれがありました。洋服からパジャマに着替えて頂く事にしました。最初は嫌がり、無理をさせる事もないと諦めていた所、ある時から自分で時間になると着替えて来る様になりました。それに気がついた時は感動で、涙が出てきました。

生活リハビリだけでなく、入居者様十人全員に今の様に一人一人に数えきれないドラマがあります。それを支えてくれたのが、ご家族であり関わる職員であり、ある時は温かく見守り、ある時は寄り添い、手伝って頂きながらの介護でした。

ある職員が「みんな、悠の家族になったね」と言いました。「そうだね」ご家族からお預かりした大切な命、今以上に、入居者様が楽しく穏やかに暮らせる様、望みの門に入ってからお世話になった皆様に感謝し、仲間達と頑張りたいと思います。



老人デイサービス事業 望みの門デイサービスセンター
導かれて 仕える者に なりなさい

介護員 端戸 和世



子育てが一段落して、働くようになってから十数年がたちました。その間、何度か職場が変わりましたが、途絶えることなく必ず次の仕事が与えられてきました。そして、今年四月母の介護に伴い乳児院から、デイサービスセンターにきました。

まさに、導かれて、ここまでできました。今まで、保育士として仕事をしてきましたので、介護の仕事は初めてです。「車椅子、押したことがありません。」「トランス それ、何ですか?」新生児はお風呂に入れることができますが、お年寄り「はて、どうしてやるの?」と、初めてのことばかり。介護をしながら、何度、『誰か来てー。助けてー。』と、大声で叫びたくなることがあったか。

この頃ようやく、ふっーと一呼吸おいて、どうしようかなと考えることができるようになりました。そんな日々、「はー、おめいよー がんばっ

てるっペー。」という利用者さま、「どうだい、少しは慣れたかい?」送迎時声をかけて下さるご家族の方々、危なっかしい介護をつかず離れず見守りながら、適時アドバイスをくれる職員の皆。たくさんの人に支えられて、仕事をさせてもらっています。

時々自分に問いかけてみます。私は、こうして支えてくれている人たちのために仕える者となって働いているだろうか。必要としてくれている人に本当に仕えているだろうか。もう若い人のように瞬発力はありませんが、年を重ねて、学び得てきたものが、少しずつ増えてきました。

腰を屈め、こうべを垂れ、仕える者として働いていきたいと思えます。

訪問看護ステーション 望みの門訪問看護ステーション
看護の本質と原動力

管理者 渡邊 零子

昨年の四月に望みの門訪問看護ステーションを開所し、早いもので開所から一年三ヶ月過ぎました。現在二十四名の利用者がおります。

私は看護師として三十八年外科、内科、精神科、脳神経内科等を経験しております。その中で訪問看護師としては十五年になります。看護師としてあるべき看護の姿を探して

ナイチンゲール看護論から始めKOMI理論を学び続けています。また医療や福祉の進歩変革に合わせて、自ら進んで勉強し介護支援専門員や認知症ケア専門士、リスクマネージャー等の資格を取得しました。またそれぞれ専門職部会に入会し、研修会にも参加することにより、新しい知識を学び技術を磨いてきました。そのたびに考えたことは「看護の本質・看護の質の向上・科学的根拠に基づくサービスの提供・地域との連携・社会への貢献」でした。

十五年続けている訪問看護は、看護の本質をじっくり追及できます。訪問中はそのご利用者様とだけ向き合うことが出来る究極の個別看護が行えるからです。そして新規ご利用者様と出会いがあるたび考えることは「原点に立つ」ことです。究極の個別看護を考える事は、看護師として「一人一人の利用者に寄り添い理解を深め研鑽しながら看護を進める」ことと考えております。

このたび、訪問看護を利用いただいている利用者、満足度調査を行いました。アンケートに答えて頂いた利用者は二十一名おられました。ご協力を頂きありがとうございます。ご意見の一部を紹介します。「訪問看護師が来ることで生活にメリハリが持てる。色々相談でき心強い。看護師が一方的に押し付けるのではなく、私たちの言葉を一言ひとこと良く聴いてくれる。病気の説明が医者より分か

りやすい……」等 皆様のご意見は、職員一同のモチベーションを高めやる気にさせてくれます。ありがとうございます。

今後とも看護の本質と原点に立ち個別看護の提供が行えるよう利用者へ寄り添った訪問看護の提供ができるように研鑽を重ねてまいります。今後とも宜しくお願い致します。

* 利用者満足度調査内容は、訪問看護ステーションから出している季刊誌「さくら草」第三号に「利用者の声」として載せますのでそちらもご覧ください。近日中発行予定です。

就労継続支援事業 望みの門 新生活



六月二十八日(土)に毎年恒例の潮干狩りを実施しました。

この時期はどうしても梅雨。前々日、前日と天気予報は悪くなるばかりで「やっぱり雨かな?」という声も多く、当日は朝からシトシトと霧雨が降り始めてしまいました。やっぱり中止かな?といった雰囲気でしたが「予定したんだから行ってみようよ!」という声に利用者みんなも大歓声。バスに乗っていざ出発。海岸に着いたときには雨もやみ、曇っていたせいで暑くもなく海を渡る風が心地良

いくらいでした。さあ班に分かれてアサリ掘りの開始です。機動力を活かして大潮で遠くまで引いた浜をどんどん進む班や近場でじっくり腰を据えて取り組む班と様々。動きたくないからとつても近場で済ませる班も……。右手に熊手、左手で砂の中を探って。「ガリッ」手応え



を感じます。「あつたー!」それぞれの班からこんな歓声が出始めるともうみんな夢中。約一時間半でしたが網袋の中はみんないっぱいに詰め込むくらいの大漁となりました。中には「魚いたー!」と大きなスズキを捕まえた人やワタリガニを捕って喜ぶ人もいてあつという間に時間が過ぎてしまい、「えー、もう終わりー!」もつとしたーい」という声

がありました。新生舎に帰って捕れたアサリを集めてみるとなんと大きな樽に三杯分。計量はしていませんが八十kgは遙かに超える量で、これまでやった潮干狩りの中で一番の収穫量になったと思います。アサリの生息地に全員の班が当たったのか、それとも捕り方が上達したのか、はたまた作業のようにみんな集中して取り組むようになったのか。でも絶対に言えることは「もう飽きたー」「つまんない」といった声や態度がまったく見られずそれぞれが行事をとっても楽しんでる様子がありました。

捕れたアサリはみんなで均等に分け、自宅に持ち帰っています。月曜日には「バター焼きでおいしくいただきました」「こんなにいっぱいのアサリで驚きました」といった家庭からの声も多く、利用者みんなもきつと鼻高々でアサリを持ち帰ったことでしょう。

ひとつの行事を終えるたびに思うのは一歩社会に出たときの利用者の行動や振る舞い方に成長が感じられ、特に、落ち着いて行動できたり職員に頼ることが少なくなったり自分で判断ができるようになってるのはとても感心しています。

楽しいだけの行事ではなく様々な体験や経験を通して自分でも「できる」という自信を持たせていけるそんな機会をこれからも増やしていければと思います。

共同生活介護・援助事業 グレースホーム 二年生になりました

世話人 齊藤 房子

グレースホームの世話人として勤務するようになって二年目になります。高齢者在宅介護を何年もやってきた私にとって、グレースホームでの仕事は戸惑うことばかりでした。初めはただ仕事を覚えることに必死で、利用者さんとコミュニケーションをとることがやっと。一人ひとりの性格・食べ物の好み、得意・不得意なことが、おぼろげながら見え始めたのが去年七月の一泊旅行を終えた頃でした。

あれから一年、今年も一泊旅行で養老溪谷



とマザー牧場に行ってきました。毎年のことですが、旅行の一番の楽しみは宴会です。日頃、口数の少ない利用者さんが元気にカラオケを歌い、その歌に合わせて大合唱。みなさん見事な合いの手で大いに盛り上がりました。この日のために一ヶ月前からお風呂で練習している利用者さんもいたとか。

次のお楽しみは帰りのお土産タイムです。お土産物を選ぶときも、「お小遣いでこれ買える?」「どっちがいいかな」「お金はどれを出せばいいの?」と、ひとりでの買い物は苦手な利用者さんも、聞いてくる内容は慣れたもので、落ち着いて楽しく買い物をすることができました。

利用者さんにとって、外出、特に一泊旅行はとても楽しみなことです。一緒にお風呂に入り、一緒に寝ることをとても喜んでくれる利用者さんに、私の方こそ嬉しくなります。みなさんにとって良い思い出にするためにも、事故やケガがないように細心の注意を払う気配りが一番を考えられるようになったのは、この一年で視野が広がった私の成長だと思っています…?

障害者支援は自立に向けての援助であり、出来ないことを出来るようになるまで続けることではなく、自分ひとりでできることを少しでも増やしていけるよう、また維持していただけるよう支援者側が努力しなければなりません。そして共同生活でのストレスを少しでも

軽減し笑顔に変えていけるよう、一人ひとりの目標を大切にしたり支援が必要となります。この支援があつてこそ、彼ら彼女らの生活の質が高められることとなります。

来年は三年生。日々利用者の皆さんと「共に笑い、共に悩み」ながら、一緒に生活する中で、より成長した三年目に向けていけたらと思います。

地域活動支援センター 望みの門ヨカデイサービスセンター
「回転寿司」に行ってきました

管理者 藤崎 美智

望みの門ヨカデイサービスセンターでは、年間計画から一年に三回外食する機会を設けています。今回は、今年度第一回目の外食の様子をお知らせしたいと思います。

ヨカデイサービスセンターの毎日は、午前中に入浴し、昼食は望みの門学園で調理された食事をみんなでいただき、午後には機能訓練などや創作活動などに取り組んでいます。昼食の時間は、来所してすぐにメニュー表を見るほど、利用者の皆さんがとても楽しみにしている時間です。毎日季節の食材をつかった手作りのおいしい食事をいただいています。が、みんな外に出かけて食事をするのも大好きです。

さて、今回の外食は一ヶ月以上前から「ど

んな料理を食べようか？」とみんなで相談していたところ、お寿司が良いという意見が多く出されました。「お寿司」といえば、毎年「いそね寿司」の翔太さんが目の前で握ってくださるお寿司を味わうことのできる恒例の新年会があります。苦手な方もいらっしゃらず、みなさん大好きです。今度は、「どこでお寿司を食べようか？」と話し合い、自分で好きなものを選んで食べることができると、安価なので思い切り食べることができるといふことで、「回転寿司」に決定しました。外食当日は、ヨカデイサービスセンターを出発し、十一時過ぎにはかっぱ寿司君津店に到着しました。十二時前なのに、もう店内にはお客さんが沢山入っておりびっくり。さすがに人気があるようです。

私たちも三つテーブルに分かれて、早速レーンに流れているお寿司に目が釘付け！レーン側に座ったMさんなどは悩む様子も全く見せず、まず一皿をゲット。にこにこしながらパクリ。



方には、職員が食べたいものを教えていただき取ってさしあげるとパクリ。また、レーンに流れていないお寿司は、タッチパネルで注文すると、レーンの上に新幹線が注文したお寿司を運んで来るといふパフォーマンスで、童心に帰る大歓声。お寿司だけではなく、ケーキやジュースも流れてくるので、デザートも楽しむことができました。そして、テーブルのひとりひとりの前には、お皿の山がみるみる高く積まれていきます。職員は目が回るほどでしたが、沢山食べた方でデザートを合わせて十三皿、お寿司はおいなりさんだけ三皿とジュース三本という方もいて、利用者のみなさんが思い思いに自分の好きなものを食べることができ、満足していただけたようです。これからも、ヨカデイサービスを利用していただける方々が、楽しく参加できるように行事を企画していきたいと思えます。

千葉県中核地域生活支援センター 君津くしネット
グループホームってどんなところ？

障害者グループホーム等支援ワーカー 南雲いずみ

「グループホーム」ってどんなところですか？とよく質問を受けます。それは、障害のある人が暮らしている大事な「お家」ですと答えています。訓練や指導をするところでは

なく、管理されるところでもありません。もちろん、出来ないことやわからないことは、職員のみなさんが、寄り添い、一緒に考え、支えてくださいます。また、それぞれのグループホームには、そこで暮らす人が暮らしやすいようにルールを作っています。それは、どこの家庭でも、その家庭のルールがあるのと同じです。

今年の四月から、グループホームに一元化されて、制度上ではケアホームはなくなりました。障害支援区分に関わらず、利用できるようになり、高齢になったり、障害が重なりたりしても利用できるようになりました。また、一人暮らしに近い形で暮らすサテライト住居が新たな形態としてできました。しかし、今のところは、特に日々の暮らしの変化はありません。制度が変わることによって、より暮らしが豊かになることを願います。障害者グループホーム等支援ワーカーの仕事は、グループホームの質を高めることと、



量を増やすことです。グループホームは、生活訓練をする施設のミニ版と思っている人もいます。しかし、グループホームは利用する人の大切な「お家」です。誰もが、自分の暮らしにいろいろな思いがあり、それぞれ自分の生き方を持っています。その思いや、生き方があるままにだして暮らせる「お家」になるように、グループホーム・福祉関係の職員の皆さん、地域の皆さん、新たにグループホームを開設したい皆さんに向けて講座や研修会を開き、一緒に勉強させていただきながら、誰もが暮らしやすい地域づくりをしていきたいと思っています。

富津市富津地区地域包括支援センター 包括での毎日



相談支援員 河瀬 剛

平成二十六年四月一日より事業を開始し、開設当初に比べると業務に落ち着きを感じ、家庭訪問や利用者様が事務所に来て頂ける様になりました。

私(社会福祉士)の基本的な仕事内容は、①独居の高齢者様の安否確認に家庭訪問しており、今の時期は「水を飲んでますか?窓を開けましょうか?」などの熱中症対策に力を入れてます。台風の後には看護師と共に家庭訪問し、血圧を計測し健康相談をしています。

②介護予防教室で、下肢筋力向上、転倒予防体操と脳トレをやっています。③民生委員の方々やケアマネさんに地域の様子をお聞きし、必要あれば家庭訪問し今後を一緒に考えていきます。

皆様に、ご協力いただいたり教えていただいたりすることも沢山あります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



児童養護施設 望みの門がずいの里

基幹的職員の役割



保育士 鈴木 雪江

私はかずさの里に就いて七年目を迎えています。着任当初、小さかった子ども達も大きくなり、今では思春期の子ども達が半数近くとなりました。それゆえ一人ひとり、勉強に進路にと悩みも増え、その話に耳を傾け向き合う毎日です。

そのような中、私は一昨年に基幹的職員の研修を受けました。基幹的職員として果たす役割は大きくわけて三つあります。一つは入所児童の支援計画の進捗状況の把握、見直しなどケースマネジメントとその進行管理を行うこと、二つ目は地域の社会資源等について理解し、関係機関との連携において中心的な役割を担うこと、三つ目は施設の他の職員に対する適切な指導及び教育並びにメンタルヘルスに関する支援を行うことです。一つ目の子どもに関することは当然のことですが、私は子どもの養育支援に繋がる三つ目の職員に関することがとても重要なことだと感じました。それと同時に今の自分にその役割ができていくかと自問自答し、まだまだ基幹的職員として力不足であることを実感しました。そして、今後どのように努力するべきなのか悩みました。職員への声かけや適切な助言・指導、自分を含めたメンタルヘルスに関する支援がとても重要であることを理解した



からです。これを職員一丸となり日常でぶれることなく実践してこそ、子ども達により良い支援ができると思います。

児童養護施設は子ども達にとってはお家で私達職員は子ども達の思いに耳を傾けながら、どんな家にしたのか暮らしにしたいのかを日々考えていかなければなりません。ですが『暮らし』にマニュアルはありませんので容易に創造することはできません。そんな思いも育ちも違う職員同士で、子ども達の様々な思いを共有しながら一丸となりより良い暮らしを求めていくこと、その中心を担うのが今の私の課題だと改めて自覚しているところです。

これまでの経験をきちんと生かし自身の意欲と役目、責任をよく考え、子ども達の良き支援に繋がるスーパーバイザーとなれるよう、基幹的職員の役割を果たしたいと思っています。

乳児院 望みの門方舟乳児園

日帰りドイツ遠足

施設長 白鳥 正道

方舟でもドイツ(村)に行ってきました。当日は素晴らしい晴天に恵まれました。今回の目的の一つで以前からリクエストのあったスワンボートに初挑戦。不安定なボートにも意外と積極的でした。少し消極的な児は鯉と

カモにえさやり体験。こちらも怖がることなく責任を果たすことが出来ました。

池の次は「わんぱく広場」に移動して外の遊具を中心に、ふらふらになるまで走りまわりました。平日のため他の客も少なく好きなだけ走りまわることが出来ました。

昼食はお弁当持参。おにぎりをおかわりして食べた児もいました。昼食後は観覧車で景色を満喫。子ども達はバッテリーカーの方が気に入ったようでした。

「子ども動物園」ではミニブタや羊、山羊など見ることが出来ました。大人が抱いたモルモットに興味を持ち恐る恐る触ることもできました。一日で様々な初めて体験することが出来感謝でした。今年度に入り、方舟

から三名の児が異動しました。子ども達が新しい生活に向かう時、安心して次のステージへ向かえるよう十分準備して気持ち



よく送り出したいと願っています。しかし実際に見ている職員一人一人の想いは複雑です。子どもを送る度に悲しそうにする職員を見受けます。そこに良好な人間関係が築かれていると実感出来ず。

非常に短い、しかし子どもの成長にとって人間形成の最も大切な時期を預かることでお互いかけがえのない存在になっているのだと感じます。

施設入所児には本来獲得できた大人との良好な関係の再構築が必要な場合が少なくありません。入所児に対し愛情を注ぎ、訴えを聴き共感することが私たちに与えられた役割であり、施設を出る時に、笑顔で送り出せるよう準備することが必要です。

そのために施設と児童相談所は連携を強化し、未来の子どもたちの笑顔に繋がるよう一日一日を大切し、安心して生活できる環境としてそれぞれが成長を続けなければならぬのだと思います。

児童家庭支援センター 望みの門 ピーターパンの家

今の自分に出来ること

心理相談員 堀 智絵

はじめまして。今年度より、望みの門。ピーターパンの家で心理相談員として、当センターに来所される父母の相談や子どもものプレ

イセラピーなどを行なっています。また、富津市で行われている一歳半健診にも発達相談員として参加させていただいています。

私の持っている「臨床発達心理士」という資格は、「生涯を通して変化していく『発達』」の観点を重視し、その人を捉えていくことを強みとしています。発達というと、子どもや発達障がいについての専門家と思われることが多いのですが、現在、臨床発達心理士は、乳幼児期から老年期といった全ての人を対象に、幅広く活躍しています。

プレイセラピーでは、現在、来所してくる子どもとの遊びを通して、それぞれの子どもへの育ちや特徴、抱えている課題などをみています。

例えば、積木遊びは、「積み重ねる」という手先だけの育ちではなく、「積み木を何か（車や建物など）に見立てて遊ぶこと



ができるか」という認知レベルの発達もみることが出来ます。それらはその子の発達過程を知る上でとても大切です。また、子どもが遊びの中で展開するストーリーに、その子の抱えている問題が表れることがあります。

例えば、お人形遊びやおままごとには、その子を取り巻く環境が大きく反映します。子どもがセラピストに受け止められて安心して自分を表現できるように気を配りながら、一方ではその子にとって必要な支援は何か、常に意識しています。

相談業務は、人と人の間に信頼関係があつてこそ成り立つものだと思います。大学でも最初に、「来談者に寄り添う」こと、「傾聴することの大切さ」を学びました。現在、日々相談業務を行う中で、次第にその大切さを実感してきたように思います。社会人としても、心理士としても、駆け出しの私には、出来ないことがまだまだたくさんあります。任せられている相談は多くはないけれど、だからこそ一人一人の相談者を大切に、来談者の話を親身になって聞き、その人の立場に立って一緒に考えていくことが出来るのではないかと思います。

ベテランの相談員のように求める解答をすぐに出すことは出来ないけれど、その人と一緒に解決へ歩んでいくことを味わいながら、これからも頑張っていきたいと思えます。

望みの門バザー収支報告

2014/6/16

単位：円

収 入		支 出	
中古衣料	224,130	材 料 費	271,904
雑 貨	481,904	雑 費	138,350
ベーカリー	194,535	通 信 費	194
屋 台	124,350	本部繰入金	810,000
喫 茶	0	次期繰越	65,420
新 品	108,170		
家 具	13,300		
そ の 他	17,479		
収 入			
寄 付 金	122,000		
収 入 計	1,285,868	支 出 計	1,285,868

上記のとおり報告いたします。

望みの門支援バザー実行委員会

委員長 井本 義孝

六月七日(土)梅雨空のもと望みの門バザーを開催いたしました。足元の悪い中ご来場いただきました。お客様、ボランティアの皆さまには心より感謝いたします。なにかと不便をおかけしたと思いますが、今後とも望みの門をご支援いただけると幸いです。



社会福祉法人ミッドナイトミッションのぞみ会 平成25年度 決算報告

貸借対照表

(単位：千円)

科 目	金 額
資 産 の 部	
流動資産	575,048
固定資産	2,658,374
(基本財産)	2,014,838
(その他の固定資産)	643,536
資産の部合計	3,233,422
負 債 の 部	
流動負債	78,297
固定負債	681,916
負債の部合計	760,213
純 資 産 の 部	
基本金	723,022
国庫補助金等特別積立金	646,909
その他の積立金	387,651
次期繰越活動増減差額	715,627
純資産の部合計	2,473,209
負債及び純資産の部合計	3,233,422

資金収支計算書

(単位：千円)

科 目	金 額
サービス活動収益	1,381,940
サービス活動費用	1,320,154
サービス活動増減差額	61,786
サービス活動外収益	18,710
サービス活動外費用	6,230
サービス活動外増減差額	12,480
経 常 増 減 差 額	74,266
特別収益	114,698
特別費用	110,313
特別増減差額	4,385
当期活動増減差額	78,651
前期繰越活動増減差額	698,977
当期末繰越活動増減差額	777,628
基本金取崩額	0
その他の積立金取崩額	62,000
次期繰越活動増減差額	715,628

事業活動計算書 (単位：千円)

科 目	金 額
事業活動収入	1,388,985
事業活動支出	1,245,037
事業活動資金収支差額	143,948
施設整備等収入	6,208
施設整備等支出	51,735
福祉事業活動収支差額	△ 45,527
その他の活動収入	361,726
その他の活動支出	419,438
その他の活動資金収支差額	△ 57,712
当期資金収支差額	40,709
前期末支払資金残高	515,480
当期末支払資金残高	556,189

※ホームページにも掲載しております。

http://www.nozominomon.or.jp/

編集後記

富津海水浴場も海開きし街はいつもの夏景色になりました。ジェットスキーを引くピックアップトラック、電車の中は青春を謳歌する若者たち、コンビニでは食料を買って家族連れ。誰もが笑顔で幸せそうです。望みの門の目指すところも利用者・職員一人ひとりの幸せにあります。この夏も私たちは幸せを目指し汗をかきます。

T 2